

六味丸

小児薬証直訣

組 成	地黄5〜6, 山茱萸・山薬・沢瀉・牡丹皮・茯苓各3.0 (六味丸料として)
主 治	腎陰虚, 虚火上炎
効 能	滋陰補腎, 瀉火

プロフィール

本方は、宋代の銭乙の『小児薬証直訣』巻下に地黄圓という名称で記載されている処方であり、現在では、六味丸あるいは六味地黄丸と呼ばれる。本来は丸剤であるが、煎剤で用いられることも多い。また原典では熟地黄を用いることになっているが、日本では日局の乾ジオウを使用するのが一般的で、医療用漢方製剤も同様である。多くの加味方があり、杞菊地黄丸や麦味地黄丸などがよく知られている。

方 解

六味丸は、基本的には『金匱要略』の八味地黄丸から桂枝と附子を除いた処方である(上述のように、本来は熟地黄を用いる)。主薬の熟地黄は滋補腎陰、山茱萸は養肝益腎、山薬は滋腎補脾に働き、この3薬をあわせて腎精を補益し陰虚を滋補する。沢瀉は利水滲水、茯苓は健脾利水に働いて水湿を除き、牡丹皮は清熱涼血に働いて腎陰不足によって生じた内熱を瀉する。熟地黄・山茱萸・山薬の3薬(補に働く)と、沢瀉・茯苓・牡丹皮の3薬(瀉に働く)の働きを総称して三補三瀉という。

四診上の特徴

本方の使用目標に関する記載は少ない。一般的には、脈は細数、弦細数で、舌苔は少ない〜無苔、紅〜暗紅、腹力は中等度で臍下不仁をみるとされている。井上は本方の使用目標を下記のようにまとめている¹⁾。

1. 口渇・身体熱感・手足のほてり・のぼせ
2. 発汗過多・寝汗・尿の色が濃い
3. 顔色が悪い・眼の下にクマ・無月経・無排卵
4. 発育不良・知能の発達の遅れ
5. 頭がボーッとする・ふらつく・思考力減退
6. めまい感・耳鳴り・難聴
7. 腰や膝がだるく力がない・足腰の痛み
8. 夜間頻尿・排尿困難
9. 下腹の瘀血を思わせる抵抗

使用上の注意

地黄を含む処方であり、胃腸障害に注意を要する。

臨床応用

小児科疾患

『小児薬証直訣』には、「腎怯して失音し、顫開きて合せず、神不足し、目中白睛多く、面色晄白等を治する方」とあり、現代風に言えば、成長・発育の障害に適応がある。江戸時代には小児の発育障害に対する投与例があり、最近では、井上が低身長の子供に投与したところ、20cm身長が伸びたとの報告がある¹⁾。

石田は、8歳と7歳の兄弟の夜尿症に漢方治療を開始したが、十分な効果が得られなかったため、六味丸を追加したところ改善したと述べている²⁾。豊田も、痩せて色黒い8歳の男児の夜尿症に本方を用いた報告をしている³⁾。

梅村はネフローゼと思われる6歳の男児で、赤小豆湯が無効であったため六味丸料に変方したところ、その日から尿が大量に出て、数日のうちに浮腫が軽快した1例を報告している⁴⁾。

手塚は乳幼児の頃から喘息発作を繰り返す、骨格の発育不良や運動能力の低下、足のほてり、盗汗、食が細いなどがみられた7歳の女児に六味丸を投与したところ、柴朴湯や小青竜湯で抑えられなかった点滴を必要とする発作が1回のみになり、食欲も旺盛になり成長も年齢相当になったと報告している⁵⁾。

腎・泌尿器疾患

Haraは遊走腎に対する報告の中で、2例に六味丸を使用し、有効、著効であったと報告している⁶⁾。

石戸は、ほてり感を伴う前立腺肥大の症例に対して、六味丸を中心に黄連解毒湯や白虎加人参湯を併用して症状が安定した1例を⁷⁾、久米は腰痛を伴う症例に当初杞菊地黄丸を用い、その後六味丸エキスを長期に使用して軽快している1例を⁸⁾報告している。

古川は血液透析による除水を陰虚と考え、透析中のレストレスレッグ症候群に六味丸が奏効した2例を報告している⁹⁾。また、岡らは透析に伴う二次性副甲状腺機能亢進症に対し、ビタミンD₃パルス療法と六味丸併用で、1例はintact-PTHとALPの高値が改善し、1例はALP高値と骨所見が改善したと述べている¹⁰⁾。

呼吸器疾患

高橋らは肺結核や陳旧性肺結核の慢性消耗性呼吸器疾患8例に六味丸単独と2例の補中益気湯併用で加療したところ、単独例の5例と併用の2例で改善がみられたと報告している¹¹⁾。

齊藤らは、吸気性呼吸困難を自覚した肺MAC症の中年女性に本方を投与し、呼吸困難感と神経因性膀胱による排尿障害が改善した1例を報告している¹²⁾。

産婦人科領域

多久島は、更年期障害40例に対し加味逍遙散＋六味丸を、証に無関係に投与し、簡略更年期指数で評価したところ、4週で著効および有効例が31例となったと報告している¹³⁾。井上らは、閉経から2年以上経過した51歳から88歳の19例の老人性炎症患者に六味丸を投与したところ、2週間後に自覚症状は全例で軽減、もしくは消失し、4週間後の細胞診でも改善をみたと報告している¹⁴⁾。

眼科・耳鼻咽喉科領域

半田は、眼科領域における六味丸・八味地黄丸・牛車腎気丸のまとめを発表し、眼精疲労や老人性白内障、視神経炎などに適応があると述べている¹⁵⁾。黒木は5年間に受診した乾燥性角結膜炎35例中33例が漢方治療で改善したが、六味丸は有意に使用頻度が高く15例に用いたと報告している¹⁶⁾。

耳鼻咽喉科領域では耳鳴、鼻炎などに応用されている。藤井は腎陰虚を有すると判断した高齢者の耳鳴、鼻閉感、ふらつき感で、六味丸の有効例を提示している¹⁷⁾。内菌は一年間に受診した耳鳴の患者243例を検討したところ、腎気丸類は比較的高齢者に使用していたと述べ、六味丸の有効であった58歳の女性例を呈示している¹⁸⁾。

精神科領域

尾崎らは、八味地黄丸の向精神作用の検討を踏まえ、主に神経症の患者12例の焦燥感を標的症状として六味丸を投与した。その結果、2週後と4週後で焦燥感(66.7%/91.7%)と意欲の低下(66.7%/83.3%)が有意に改善したが、八味地黄丸と異なり、抑うつ気分の改善は認められず、むしろ41.7%で軽度悪化した¹⁹⁾。

石川は『素問』で恐の病態が腎と関連することから、六味丸を用い有効であった神経症の7例を報告している。全例に腎虚の徴候(腰膝酸軟、臍下不仁、尺脈弱)と熱証があり、6例に気虚がみられたと述べている²⁰⁾。

千丈は、長期入院中の慢性期統合失調症患者12例に六味丸を投与し、その結果PANSSによる評価で改善5例、不変7例、悪化0例であったと述べている。特に2例は夕方から亜昏迷状態になり対応困難になっていたが、そのような状態はほとんどみられなくなったと報告している²¹⁾。

皮膚科領域

吉永らは、自家製六味丸を、問診で陰虚と診断した9例の皮膚疾患に投与して効果を検討している。それによると1例は脱落したが、慢性湿疹3例、酒皰様皮膚炎、尋常性乾癬、掌蹠膿疱症、亜急性痒疹各1例は有効で、慢性湿疹の1例がやや有効であった²²⁾。

紀らは、主婦湿疹の4例に対して六味丸を投与し内服翌日から軽快したと報告している²³⁾。

その他

今泉は、婦人科系疾患の術後の患者で顔や手掌足底のほてりを目標に使用したところ、約3ヵ月で症状が軽快したと報告している²⁴⁾。また仲原らは、真冬でも暑がって裸で寝る3歳の小児に六味丸を投与したところ、服を着て寝るようになったと述べている²⁵⁾。

江戸時代には舌痛症に用いており、近年は益田²⁶⁾と平田ら²⁷⁾の症例報告がある。また、口腔乾燥症や再発性アフタに用いられることもある。

【参考文献】

- 1) 井上淳子: 六味丸 漢方と診療 5(3): 200-206, 2014
- 2) 石田和之 ほか: 六味丸が著効した夜尿症の兄弟例. 日東医誌 60(6): 635-639, 2009
- 3) 豊田 一: 六味丸に関する知見と症例 漢方診療 2(5): 51-53, 1983
- 4) 梅村隆保: 六味腎気丸治験. 漢方と漢薬 7(10): 940-941, 1940
- 5) 手塚昭子: 腎陰虚証に対する六味丸の有効例. 漢方診療 2(2): 62-63, 1983
- 6) K. Hara: EFFECTS OF GINKI-GAN ON LUMBAGO ACCOMPANYING NEPHROPTOSIS. 福岡医師漢方研究会会報 14(1): 8-11, 1993
- 7) 石戸則孝: ほてり感を伴った前立腺肥大症に対するツムラ六味丸合方の著効例について. 第11回泌尿器科漢方研究会講演集 1: 45-48, 1994
- 8) 久米由美 ほか: 高齢者の2症例. 漢方の臨床 58(9): 1778-1785, 2011
- 9) 古川和美: 血液透析中のレストレスレッグ症候群に六味丸が著効を呈した2例. 日東医誌 66 suppl.: 279, 2015
- 10) 岡 良成 ほか: 二次性副甲状腺機能亢進症の治療における漢方方剤併用の試み. 第9回中国腎不全研究会/第16回中国CAPD研究会予稿集 30: 2000
- 11) 高橋好夫 ほか: 慢性消耗性呼吸器疾患に対する六味地黄丸及び補中益気湯の使用経験. 第9回国立病院療養所漢方シンポジウム抄録 67: 1990
- 12) 齊藤 均 ほか: 補腎剤で改善した吸気性呼吸困難の2症例. 日東医誌 62 suppl.: 231, 2011
- 13) 多久島康司: 更年期障害に対する加味逍遙散＋六味丸の有効性について. 日本更年期医学会雑誌 15 suppl.: 124, 2007
- 14) 井上滋夫 ほか: 六味丸の老人性炎症治療効果. 産婦人科漢方研究のあゆみ XVII: 140-145, 2000
- 15) 半田喜久美: 眼科の症例(23). 東洋漢方 31(4): 5-13, 2008
- 16) 黒木 悟: 乾燥性角結膜炎に対する漢方治療. 漢方診療 12(9): 21-24, 1993
- 17) 藤井まゆみ: 高齢者の腎陰虚(六味丸で軽快した3例). 漢方の臨床 60(5): 821-826, 2013
- 18) 内菌明裕: 耳鳴患者に対する年齢別漢方方剤の有効性について. 第29回日本耳鼻咽喉科漢方研究会学術集会講演要旨集 10: 2013
- 19) 尾崎 哲 ほか: 八味地黄丸と六味丸の向精神作用の差異. 日東医誌 45(4): 957-968, 1995
- 20) 石川利博: 六味丸が有効であった神経症の7症例. 日東医誌 64(4): 234-242, 2013
- 21) 千丈雅徳: 慢性期精神分裂病者に対する六味丸の効果. 日東医誌 45(5): 102, 1995
- 22) 吉永和恵 ほか: 六味丸の皮膚疾患への臨床応用とその有効性について. 東京都衛生局学会誌 (91): 114-115, 1993
- 23) 紀 敦成 ほか: 手術室スタッフの手湿疹に対して漢方薬が奏効した4症例. 第54回日本麻酔科学会関西支部学術集会(3) 麻酔 58(8): 1065, 2009
- 24) 今泉 清: 「ほてり感」の漢方治療. 産婦人科漢方研究の歩みIV: 44-46, 1998
- 25) 仲原靖夫 ほか: 陰虚の臨床的意義. 第39回日本東洋医学会、九州支部学術総会抄録: 35, 2013
- 26) 益田龍彦: 専門科で難治性であったが、漢方エキス製剤ですみやかに症状改善した舌痛の2例. 第40回日本東洋医学会九州支部学術総会抄録: 17, 2014
- 27) 平田道彦 ほか: 漢方治療を試みた舌痛症の2例. 痛みと漢方 17: 38-42, 2007